



■ 厳冬の中…

第4回 青柳事故研修開催



2月9日、中央東線青柳駅において長野地本主催「第4回青柳事故研修」が開催されました。当日は24名の仲間が参加し、事故発生時刻にあわせ参加者全員で黙祷を捧げました。参加者は事故が発生した青柳駅と、駅近くの「金沢コミュニティーセンター」の会議室で、研修スタッフを担う松本支部の仲間から事故の概況説明を受け、その後、意見交換会を開催しました。

研修に参加した仲間からは・・・

- 仕事で列車が近づくのがわからない怖さを体験している。研修に参加してその怖さをあらためて実感できた。
- 事故当時、茅野駅の仲間が大変なショックを受けていた。
- ルールを守らなくてはならないのに面倒に感じる事がある。しかし、ルールを守ることが大事。事故を起こさないために対策をしっかりとやっていく。
- 事故があった事を風化させてはいけない。
- 自分と仲間の命を守るということを意識して仕事に取り組んでいきたい。
- 今年は雪が多い。事故を自分の仕事に照らし合わせて振り返りをしていく。
- 仕事にルールがなぜあるのか？なぜ面倒と感じてもルール通りしなければならないのか？自分自身納得していないと取り組めない。会社は「究極の安全」と言うが、その趣旨の全てが自分達に伝わらずやらされ感がある。
- 研修センターの事故の展示を見学したが、どこか軽い感じがした。もっと深いところまで伝えてほしいし、伝えなくてははいけない。

以上の率直な意見や感想が述べられ、一人ひとりが安全への想いをあらためて強く胸に刻みました。

青柳事故の発生から今年で19年が経過しました。今日までに長野支社に限らず、JR東日本全体で社員が命を落としたり、怪我をしまったりと重大な事故が毎年多く発生しています。また、お客さまも同様な危険にさらしてしまう事象も多く発生しているのが現状です。

労働組合として仲間の命と安全を守ると同時に、ご利用いただいているお客さまの命と安全を守ることも私たちに課せられた重要な課題です。誰もが安全で安心して働き、お客さまも安全で安心してご利用いただく環境を目指すために、これからも運動を推し進めていきたいと思います。



事故を風化させず「教訓」となるような運動をこれからも創りだそう!!